

第8回 和歌山県弥生・古墳時代研究会の報告

開催日時：平成24年12月22日（土）13:30～16:00

開催場所：和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市岩橋1411番地）

研究会の発表内容：

「大日山35号墳出土の人物埴輪の検討」仲原知之（紀伊風土記の丘）

今年度末に報告書を刊行予定で、現在大日山35号墳の埴輪の整理作業を進行中です。報告書作成前にいろいろな方にご意見をいただきたいと思い、当研究会で埴輪の検討会をしていきたいと思っております。一度にすべての埴輪を検討することは難しいので、今回は人物埴輪にしぼって実物を観察してもらって、検討していきたいと思っております。次回は動物埴輪、その次は家形埴輪を検討する場を設けたいと思っております。

大日山35号墳の人物埴輪は、東造出から盛装男子、力士、巫女、男子？が出土し、西造出から両面人物埴輪、双脚輪状文形冠帽をかぶった人物、武人、巫女、両手をあげる人物が出土しています。その他、人物埴輪の破片や人物に取り付く部品などもあり、それらについても検討していきたいと思っております。また今回は、それ以外に人物埴輪の可能性のある不明形象埴輪も含めて、実物を観察できるようにしています。

前半は大日山35号墳の人物埴輪のこれまでわかっている概要を報告し、個々の埴輪について解説します。その後埴輪を観察してもらい、休憩をはさんで、後半は観察した結果からわかったこと、気づいたことなど、各埴輪について詳しく検討していきます。

参加者：（敬称略）＜発表者1名＋17名 計18名＞

＜発表者＞仲原知之（紀伊風土記の丘）

＜参加者＞水田義一（紀伊風土記の丘館長）、富加見泰彦（紀伊風土記の丘）

今西康宏（高槻市教委）、河内一浩（羽曳野市教委）、呉谷有哉（同志社大学）、辻川哲朗（滋賀県文化財保護協会）、花熊裕基（龍谷大学）、山野貢（一般）

（以下風土記の丘ボランティア）岡本美代子、金森昌子、川本幸男、木村健、芝 貴子、芝田鶴子、津田明子、鳥居千純、二河田喜美子

【参加者のコメント・質疑応答】

＜大日山 35 号墳出土の人物埴輪の検討＞

津田 : 双脚輪状文形冠帽をかぶった人物ですが、このような冠帽をかぶった人物は関東では出ていると思うのですが、西日本では他に出土していますか。

仲原 : 西日本では出土していないと思います。

二河田 : 単体の大きな双脚輪状文形埴輪は、大谷山 22 号墳、井辺八幡山古墳、あと寺内 18 号墳でも破片が出ていますね。花山 6 号墳から双脚輪状文が出たということですが間違いありませんか。このように和歌山県では多く出土しますが、何故和歌山にこの埴輪が多く出土するのか教えてほしいと思います。香川県の公文山古墳、天理市の荒蒔古墳、京都府の音乗谷古墳などからもでていきますね。西日本だけの出土ですか。音乗谷古墳の報告書は出ていないのですか。

仲原 : 音乗谷古墳の報告書は出ています。あと、花山地区から表面採集された双脚輪状文形埴輪がありますが、6 号墳の可能性はありますが、古墳は特定できていません。この埴輪は、西日本、特に瀬戸内海沿岸の古墳から出土しています。何故和歌山に多いのかという点は今後検討していきたいと思います。

二河田 : 双脚輪状文形埴輪が何故和歌山に多いのかということがずっと気になっているので、是非頑張って調べていただきたいと思います。

木村 : 墳頂部から人物埴輪は出土していますか。あと宝塚 1 号墳のようにくびれ部から船など何か置かれていた様子はありますか。

仲原 : 人物埴輪は造出からだけで、その他の墳丘の調査区からは出土していません。あとくびれ部には埴輪が置かれた痕跡は確認できませんでした。結構斜面に立地する古墳なので、流れていった可能性はない訳ではありませんが。

二河田 : むかし大日山 35 号墳の前方部あたりの園路を歩いた時、埴輪の破片があったのですが、持って帰ったらダメと言われて、置いていったことがあるのですが、造出以外の場所にも埴輪が立っていたのですか。造出以外の場所も調査しているのでしょうか。

仲原 : 造出以外にも古墳の規模を確認するため、後円部や前方部、墳頂など各所に調査区を設けて調査しています。いずれも場所からも円筒埴輪が出土しています。朝顔形埴輪もあります。人物埴輪は造出だけです。

芝(貴) : 軛かもしれないと言っていた部品がありますが、軛というのは何の道具ですか。また珍しいものですか。

辻川 : 珍しいものではありません。関東ではよく出ています。軛は男性の左手側に付けているもので、矢を射る時に左手を護るための道具です。

芝(貴) : 巫女の模様ですが、実際の巫女の服装もこのような模様だったのですか。

仲原 : 巫女の埴輪に表現される模様はある程度共通性があります。実際の服装をモデルにした可能性はありますが、巫女の埴輪の模様はこういうものだという作り方の約束があったのかもしれない。

河内 : 造出では大谷山 22 号墳や井辺八幡山古墳など、立っている場所がわかるものがありますが、大日山 35 号墳ではその後の検討で立っている場所がわかったものはありますか。

仲原 : 東造出では確実に立っていた場所がわかるものはありません。埴輪研究者による発掘調査なので見逃すことはないと思いますので、削平されているか、掘形を持たずに置いているだけ、もしくは浅い掘形だけであったかもしれません。西造出では、馬 2 体は確実に立っている場所がわかります。武人の台部もすわっていた場所がいけそうですが、あとは掘形はわかっていません。人物の台部の個体もほとんど出土していません。

仲原 : ここからは個別に埴輪について検討していきたいと思います。まずは東造出の方からです。東造出で特徴的な力士からいきたいと思います。力士については西造出では見つかっていません。ただ力士の埴輪は、破片だけでは翼を広げた鳥形埴輪のような動物埴輪の破片と区別が付かない場合があります。服を着ていないので文様がないこと、体部など丸みを帯びた部分が多いことなど動物埴輪と区別することが難しいです。なので、今確認されている以外にも見つかる可能性はゼロではありません。先ほど東造出で 2 体あると言いましたが、これでよろしいでしょうか。2 体目の方は 1 体目と胎土が違い、また作りもやや稚拙な感じですので、1 体目とは別個体です。2 体目の足先の破片ですが、玉状のものが取り付けられていますが、これは何の表現なのでしょう。

河内 : 2 体目の方ですが、脚にしては少し大きいので疑問も残りますが、断定はできませんが力士の可能性はあります。

辻川 : 足の甲に突起を付けたものがありますが、それと同じですが、何の表現なのかはわかりません。

河内 : 力士 1 と同一個体の可能性がある脚ですが、くるぶしがあるので左足です。足先の破片と接合する可能性がありますが、少し接合部の下に空間ができてしまうので、確実に接合するかどうか断定できません。小指の外側が直線的にはがれたようになっているのも少し気になります。2 体目の方もくるぶしの表現があり左足です。

- 今西 : 両胸に円形のはずれた跡がありますが、今城塚古墳の力士にはそのようなものを貼り付けて表現するようなことは確認できていません。
- 仲原 : 男性の埴輪に移りたいと思います。まず、人物に取り付く刀ですが、以前平成20年度の特別展図録『岩橋千塚』では盛装人物に接合させて掲載しています。しかしその後、刀部分の破片の上部に別破片が接合することがわかったので、直接盛装人物に接合しなくなりました。
- 今西 : 刀の部分ですが、盛装人物に取り付くとしたら、どのような形態になるのか想像ができません。
- 河内 : 刀は盛装人物のものとは別個体の可能性があります。刀に取り付く破片のカーブから考えて、今の盛装人物には取り付くことは難しいかもしれません。むしろ形態から座っている人に取り付く刀を想定した方がいいかもしれません。
- 仲原 : 何かはずれた痕跡がある人物の腕がありますが、どのようなものに取り付いていたと考えられますか。
- 辻川 : 籠手を取り付ける際の盛り上がった部分がはがれただけかもしれませんが、左手なので鞆の可能性もありますが、よくわかりません。
- 河内 : 鷹に取り付いたらおもしろいのですが。
- 今西 : 今城塚古墳では、鷹そのものは出ていませんが、左手に鷹がはずれた痕跡が残っているものが2体あります。
- 河内 : それは足が残っているということですか。
- 今西 : 2本の足に取り付いている痕跡があります。
- 河内 : 冠帽ですが、形態的には冠帽でいいが、内側にはがれた痕跡が明確ではないので、乗せているだけみたいなことになるかもしれません。
- 仲原 : 鞆のような個体ですが、鞆でよろしいでしょうか。
- 辻川 : 鞆で間違いないでしょう。
- 仲原 : 籠手の表現がない人物の腕ですが、どのような人物なのでしょう。
- 河内 : これだけではどんな人なのかわかりません。
- 仲原 : 次に巫女なんです。東造出では腕の組み合わせから、最低4体の巫女がいます。頭部も1点確認しています。巫女について、何かコメントありますか。
- 辻川 : 西造出の巫女にも同様のものがありますが、衣服の丸くなった下側に水抜き用の小穴が開けられるのは通常の形態ですが、普通は丸く開けるのですが、ここではヘラ状の工具で突き刺して貫通させているのが特徴だと思います。
- 仲原 : 人物の腕なのか、鳥の頭なのかかわからない破片については何か見当がつかえましたでしょうか。
- 河内 : 片側にだけ線刻があるので、鳥ではなさそうですが、よくわかりませ

ん。

花熊 : 今城塚古墳でも見かけません。

辻川 : よくわかりません。報告書では不明なものは不明埴輪でまとめて掲載すればいいでしょう。

(後日、河内さんから、座っている人物の足(かかと部分)ではないかという指摘がありました。)

仲原 : それでは西造出にいきたいと思います。まず両面人物ですが、以前から変わらず胴体部分の接合破片はありません

辻川 : 両面人物のほほや額の線刻は、入れ墨といわれていますが、本当にそのような文様の入れ墨をしていたのか疑問があります。額に印は他の古墳からも出ていて魔除けの印です。単なる魔除けのマークを埴輪に描いたとも考えられると思います。

仲原 : 双脚輪状文形冠帽をかぶった人物ですが、みずらをとめる表現として、螺旋状の表現ではなく、×になるようにクロスしている線刻が2体ともあって特徴的だだと思います。

仲原 : 武人に移りたいと思いますが、武人の頭頂部に穴が開いていますが、ここに何か取り付いていたのでしょうか。

河内 : 取り付いていたかもしれませんが、接合してはずれたような痕跡はないので、取り付いていたかどうか不明です。もしかしたら有機質のものがあつた可能性もあります。

辻川 : 草摺に取り付けている方形の部品ですが、考えられるのは胡籙だと思います。胡籙ならその部分は人物の右側にあたります。

河内 : 武人の草摺かと言われた2つの個体で文様が違いますが、綾杉文の方は、綾杉文自体は古くからある文様です。

辻川 : もう1つの草摺の平行沈線文と刺突文の組み合わせは大日山35号墳や井辺八幡山古墳など岩橋千塚古墳群に特徴的な文様です。

河内 : 刀の部品ですが、弓の可能性も考えましたが、やはり東造出のような人物に取り付く刀でいいでしょう。ただ刀身と柄頭との接合部がはずれていますが、ここは接合せずに、間に刀を持つ部分の破片があるはずですから、ここの接合は少し難しいかと思います。

仲原 : かかとの表現の可能性のある部品が取り付いている武人の台ですが、その上から草摺が乗っかるように出土したといわれていますが、この両者が組み合う可能性はありますか。

河内 : かかとの表現だとするとひざまづく姿勢なので、この上は土下座をするような両手をつく表現だと思います。そうすると、この草摺が取り付く可能性はほとんどないといっているでしょう。

- 辻川 : 井辺八幡山古墳でもこの台の上にどのようなものが表現されているのかわかっていません。
- 河内 : 今はかかとの表現が右足部分だけですが、よく見ると左足側にも何かはずれたような痕跡があるように思いますので、左足のかかともあったかもしれません。
- 仲原 : 両手をあげる人物ですが、馬の前から出土したこともあって、かつては馬子の可能性を考えた方もいましたが、それについてはいかがでしょう。馬子は片手をあげる姿勢ですが、これは両手をあげています。また、両足を作り出す人物は、身分の高い人か力士に限られると思いますので、今城塚古墳では巫女にも足がありますが、そう考えると馬子は難しいと思うのですが。
- 辻川 : 馬子は考えられないと思います。両足があることから高貴な人物でしょう。馬を統率するような人物であれば問題ないかもしれませんが。
- 仲原 : 次に巫女ですが、西造出では頭部は1点だけですが、腕の組み合わせから4体以上の巫女がいたことは確実です。主に器を持っている表現ですが、1つ板状のものを持つ表現があります。
- 今西 : 今城塚古墳では板状のものを持つ巫女は、塵尾を持っているのではないかという説があります。
- 仲原 : スカート状の個体ですが、男性か巫女かわかりますか。
- 河内 : これだけでは断定できません。
- 辻川 : 靴の可能性のある個体ですが、おそらく馬鐸と考えていいと思います。
- 仲原 : 馬鐸なら、西造出なので、今復元している2体の馬鐸の表現とは違うので、もう1体の存在を考える必要があるかもしれません。
- 河内 : もう1つの靴？としている個体は、想像をたくましくすれば、尖り帽子の頂部ではないでしょうか。
- 仲原 : みずらの可能性もあるかなと思った破片ですが、これは何かわかりますか。
- 河内 : はじめ見た時は、馬のたてがみを縛る部分の可能性を考えました。
- 辻川 : みずらかもしれない破片ですが、みずらの可能性を考えてもいいかもしれません。
- 仲原 : 線刻が入った板状の破片が結構出ていますが、これについては男性の後ろ髪かとも思うのですがいかがでしょう。
- 辻川 : 一部は後ろ髪としか考えられないと思いますが、量が多いのですべてが男性だとすると男性の個体数が多くなるので、要検討でしょう。刺突文と直線文があるものは帯でいいでしょう。

仲原 : 見てきたように東造出と西造出は、少し人物の種類が違ってきます。現状では、東には力士がいて、西には両面人物や双脚輪状文の男性がいます。ただ武人や巫女は共通しています。相違点や共通点をどう考えていくかは今後の課題です。みなさまに貴重なご意見をいただきまして、新たな知見も得ることができました。これを活かして報告書を作成していきたいと思えます。本日はありがとうございました。また来月以降もよろしくお願ひいたします。